FRUiTS

1
1998
フルーツ
STREET 1月号増刊号

No.6

500yen



interview
ビューティー・ビースト
ケン・イシイ

原宿フリースタイル

原宿 Free Style



シャツ：コム デ ギャルソン
シューズ：アンダーカバー
バッグ：ヴィヴィアン ウェストウッド
スカーフ：ヴィヴィアン ウェストウッド
ファッションのポイント：シンプル
美容室：SHIMAのナツキさん
今ハマッている事：エヴァンゲリオンカードあつめ
好きな音楽：テクノ
ケイコ（18才）、美容学生

ジャンパー：JEREMY SCOTT
シャツ：DEP'T
パンツ：20471120（ともだちの）
シューズ：20471120
バッグ：自作
ファッションのポイント：ふつうの服なのにかっこよく
美容室：SHIMA青山店
今ハマッている事：帽子あつめ（頭につけるもの）
好きな音楽：テクノ
たん（19才）、専門学校生



カーディガン：古着
シャツ：マサキ マツシマ
パンツ：ビューティービースト
シューズ：ジョン ムーア
アクセサリー：髭、ビューティービースト
ファッションのポイント：PunkでGOAで…
美容室：ソラリス
今ハマッている事：美容室見学
好きな音楽：ガバ、ゴア
20才、美容専門学校生

セーター：上-3年くらい前の。下-ママの
パンツ：ビューティービースト
シューズ：Z-Tech
アクセサリー：髭
ファッションのポイント：宇宙人
美容室：ソラリス
今ハマッている事：ダーリン
好きな音楽：ゴア
のっち（18才）、美容専門学校生



シャツ：20471120
スカート：小学校の卒業式で着たもの
アクセサリー：自作
美容室：ACQUA
17才、高校生





カーディガン：ヴィヴィアン ウェストウッド
ブラウス：ヴィヴィアン ウェストウッド
パンツ：手作り
シューズ：バーコード
バッグ：ヴィヴィアン ウェストウッド
ファッションのポイント：やさしい色でまとめた
美容室：SHIMA
今ハマッている事：麦茶を作る
好きな音楽：ハードコア
カオリ（18才）、高校生





ジャンパー：古着
スカート：布をまいてます
バッグ：てづくり
ファッションのポイント：唐草模様
美容室：SHIMA原宿
今ハマッている事：エヴァ
好きな音楽：TOKYO No.1 SOUL SET
モリタ マキコ（19才）、大学生



ジャケット：BREATH
パンツ：リーバイス512
シューズ：ハーフェル（No.44）
美容室：HEAVENS
今ハマッている事：PEZ
好きな音楽：guitar pop
かおる（19才）、フリーター



シャツ：スーパーラヴァーズ
パンツ：スーパーラヴァーズ
シューズ：スーパーラヴァーズ
バッグ：ランドセル
帽子：うさぎ（手作り）
ファッションのポイント：しのらー！
今ハマッている事：しのらー！
好きな音楽：T.M.REVOLUTION
しのらーエリカ（13才）、中学生

シャツ：ベティーズ ブルー
パンツ：スーパーラヴァーズ
シューズ：フィン
バッグ：ランドセル
帽子：うさぎ
ファッションのポイント：シのら→
今ハマッている事：シのら→＆REVO
好きな音楽：T.M.REVOLUTION
みかっぺ（13才）、中学生



ジャケット：コム デ ギャルソン トリコ
シャツ：ヘルムート ラング
スカート：ジュンヤ ワタナベ
バッグ：マサキ マツシマ
美容室：ウルトラC
今ハマッている事：フラクタル
好きな音楽：ハードコア
みき（19才）、専門学校生



ジャケット：マルコム マクラーレン
シャツ：マルコム マクラーレン
パンツ：ワールズ エンド
シューズ：イアン リード
帽子：ヴィヴィアン ウェストウッド
ファッションのポイント：パンツの後のふくらみ
美容室：VOLUME
今ハマッている事：ねること
好きな音楽：UKの音楽のあとはGLAY
ワタナベ（19才）、専門学校生



ジャケット：古着
T-シャツ：ヴィヴィアン ウェストウッド
スカート：ヨージ ヤマモト
アクセサリー：人形（私の赤ちゃん）＝6%ドキドキ
もみじ＝インテリアの店、ヴィヴィアン ウェストウッド
ファッションのポイント：秋の親子愛
美容室：カットは自分、カラーはGIRL LOVES BOYのあと自分
今ハマッている事：たくさん
好きな音楽：テクノ、パンク、クラシック（バロック）、賛美歌
紅（15才）、中学生



コート：古着
セーター：コム デ ギャルソン
シャツ：古着
パンツ：自作
シューズ：ヴィヴィアン ウェストウッド
リボン：手編み
ファッションのポイント：バロックアニマル'99
美容室：自分
今ハマッている事：たくさん
好きな音楽：ダメ音楽以外すべて大好き
紅（15才）、中学生



ジャケット：自作（ペイント他）
ブラウス：ジェーン マーブル（借り物）
スカート：友達から買った
シューズ：WHITE
ファッションのポイント：いつもメラメラ
美容室：アルファ湯本さん
今ハマッている事：ねことあそぶ
好きな音楽：パンク
けいこ（18才）、高校生



ブラウス：bulle de savon
シャツ：オゾン コミュニティ
スカート：オゾン コミュニティ
シューズ：アンテナ
バッグ：オゾック
ファッションのポイント：頭
美容室：HMTT（からすやま店）
今ハマッている事：インラインスケート
オッコ（22才）、エステティシャン



セーター：古着
シャツ：20471120
パンツ：クリストファー ネメス
シューズ：PREGO
美容室：友達のお兄ちゃん
好きな音楽：パンク
はちこ（18才）、高校生
ーー長野から遊びに。



セーター：小学校のとき着てました
スカート：母にもらった古着
シューズ：小学校のときはいてました。
バッグ：フリマ（50円）
指輪：アース
ファッションのポイント：フランス古着
美容室：VOLUME cipher
今ハマッている事：おしゃれ
好きな音楽：GLAY
ともこ（17才）、高校生







[illegible]
キャミソール：[illegible]
スカート：[illegible]
シューズ：ヴィヴィアン ウ[illegible]
バッグ：手作り
帽子：ラフォーレの地下
ファッションのポイント：どうぶつ
美容室：GIRL LOVES BOY
今ハマッている事：プレステ
好きな音楽：[illegible]、パンク
ヒラヤマレイカ（17才）、高校生

[illegible]
パンツ：クリストファー ネメス
シューズ：カンペール
バッグ：横須賀中央のSUN DANCEで
帽子：ヴィヴィアン ウェストウッド
ファッションのポイント：いい人
好きな音楽：黒夢
弓人（17才）、高校生



[illegible]



シャツ：手作り
パンツ：手作り
シューズ：BELLY BUTTON
バッグ：手作り
ファッションのポイント：アイスクリーム屋
LOVES BOY





カー[illegible]：ママのお[illegible]
スカート：自分で編んだ
シューズ：バーコード
バッグ：J.P.ゴルチエ
ファッションのポイント：編んだスカート
美容室：VIVACE
今ハマッている事：料理、シャボン[illegible]
好きな音楽：クラシック
ナナ（18才）、高校生



コート：自分のブランド 眠々（ねむねむ）
パンツ：眠々
シューズ：コンバース
ファッションのポイント：でかえりのコート
今ハマッている事：服作りとバンド
好きな音楽：ミクスチャー
本田 まこと（20才）、大学生



セーター：ミルク
首輪：手作り
ファッションのポイント：リカちゃん、ひこうき
美容室：SHIMA原宿店
今ハマッている事：おもちゃあつめ
好きな音楽：Judy And Maryがスキ
うちゅうじん1号（19才）、専門学校



シャツ：ゴム
パンツ：The nine head
シューズ：コージ クガ
バッグ：ポーター
ファッションのポイント：きれいに
美容室：ACQUA
今ハマッている事：ネイルアート
好きな音楽：ハウス
20才、美容

ファッションのポイント：いつもと同じ
美容室：SHIMAd 代官山
好きな音楽：ハウス、ハッピーハードコア
19才、インターン



ジャケット：Y's
セーター：アスノゥアス
スカート：作った
シューズ：ラフォーレで
ファッションのポイント：とくにない
美容室：オブヘアー
16才、専門学校生



シャツ：中学生の弟のもの
パンツ：ベティーズブルー
バッグ：ベティーズブルー
ファッションのポイント：デビルな羽としっぽ
美容室：地元
今ハマッている事：服。もっとオシャレになりたい
好きな音楽：T.M.Revolutionのような
まい（16才）、高校生

コート：ピースナウ
シャツ：ピースナウ
バッグ：ミルク
ファッションのポイント：死神
美容室：ナイーブ
今ハマッている事：変なもの
リエ（16才）、高校生



セーター：ミルクボーイ
パンツ：クリストファーネメス
シューズ：アンダーグラウンド
アクセサリー：ミルクボーイ
帽子：そのへんで
ファッションのポイント：ソフトバンク
美容室：自分で
今ハマっている事：レコード集め
好きな音楽：ガールズ、スカコア
ヒデ（19才）：大学生



パンツ：アリーナ
シューズ：NIKE
帽子：ロイヤルズ
ファッションのポイント：B.O.Bアニマルズっぽく
美容室：ゴカン
今ハマっている事：B.O.Bアニマルズ
好きな音楽：B.O.Bアニマルズ
ツダ（21才）：大学生

KEN ISHII INTERVIEW

FR　新しいアルバムの「MATAL BLUE AMERICA」を聞かせていただきました。すごく良いですね。
ケン　ありがとうございます。
FR　「エクストラ」の次のアルバムになるんですよね。
ケン　そうですね。「エクストラ」が95年なので、ちょうど2年ぶりぐらいです。その間にインディから違うものを出しているんですけど、自分のアルバムとしては2年ぶりです。
FR　「エクストラ」で、バーンと、広がりましたよね。その次のアルバムということで、いろいろ思いがありますか?
ケン　「エクストラ」の後というのはいろいろ変わってきたし、活動内容としては、あれ以降ツアーとかをしていて、96年というのはほとんど、ツアーばっかりやってたんです。
FR　どちらで。
ケン　ヨーロッパと日本とアメリカで。十数ヶ国に行って、回数もかなり多かったです。気持ち的にも音楽的にも、変わったところが多かったので、それを一つ一つ実験していったのが、今度のアルバムっていう感じなんです。
FR　2年間かけて、ずっと、作っていったという感じですか?
ケン　去年はツアーが多くて、その合間合間にっていう感じで。今年は若干まとまって時間があったので。
FR　すごく音が複雑になっているように感じたんですけど。
ケン　ま、複雑と言うか。数年前から、テクノっていう音楽自体がすごく広くなっているので、いわゆる初期の頃からの決まった形のテクノというのにこだわる必要はないというか。リスナーのほうも広がってきているし、同じものでは満足できないだろうなという気持ちもあるし。僕自身も、ずっとリスナーなので。
FR　具体的には、コンピュータを使って作ってるんですか?
ケン　使ってますね。ただ、全部が全部っていうわけじゃなくて、コンピュータとその周辺のもの以外に、ギターを弾いたりとか、パーカッションを叩いたりとか。ちょっとテストで、ボーカルとか取ってる人間もいるんですが、今回のアルバムっていうのは、基本的な部分は一人でやっていて。自分一人の中でできることの、ま、完成形というか。何もやった、これもやった、あれもやったっていう。音楽スタイルは、結構いろいろばらけるようにできたなという感じです。
FR　デビューしてと言うか、最初のアルバムから4年目ぐらいですか?
ケン　そうです。93年からです。
FR　それから急激に。
ケン　けっこう早かったですね。
FR　まだ、27歳ですよね。
ケン　はい。その前に日本での活動が無かったので、比較はできないんですけど、とにかくなんか早かった感じで。ライブとかも、それまで一回もやったことないのに、いきなり最初にアムステルダムのレイブで、2万人とか。
FR　いきなりだったんですか。
ケン　最初にチャンスが入ってきて、それを、ぶっつけでやっていくうちに、なんとなく過ぎてきたという感じです。
FR　最初の頃の機材と、今度のアルバムで使ったった機材と、全然違うんですか?
ケン　いや、全然じゃなくて。最初の時に使ってたものも、今も残してて。それに加えたりというのはしてますけど。ただ、本当に気に入った音や、慣れてる機械で、この機械だったら、他の同じ機材の持ち主よりは、自分のほうが使えるだろうなというのは残しつつ。それで、新しいものは、常にチェックはしてるので、気に入ったものを増やしていくっていう感じです。
FR　大きなスタジオの、すごい機械を使ってということでなく、自分のスタジオでですか?。
ケン　今回は、自分のスペースの中で、どれだけできるかということで。機械オタクではないんで、古いシンセがばーっと並んでいるとかっていうのは一切無くて、ポツンポツンとある程度で。どちらかというと機材とか減らしたいほうなんで。あんまり機材そのものにこだわりというか、機材マニアではないですね。
FR　仮に、僕が作りたいと思った場合、コンピュータは事務所にあるので、あとシンセサイザーとかを加えれば、作れるものなんですか。
ケン　できます。いま本当に進んできて、例えばテクノの中のベーシックなアシッドとか、リズムマシンプラスひとつみたいなものは、ソフトウェア上にあって。昔の有名な機材が復元されていたりとか。TB303とか、完全にソフト上にあって。もともと小さい機材なんですけど、それがそのままポンと画面にあって。ツマミをいじると、本当に音が出る。そういうものも既にできているので、そういうのさえ使えば、だれにでもできますよ。
FR　そうですか。やってみたいな。
ケン　いや、コストもかかんないし。デモトラックとかも入っているから、ぜんぜん問題ないと思います。
FR　コンピュータ本体と、そのソフトと、あと、外に、どんなものが必要なんですか?
ケン　コンピュータそのものというのは、さして重要じゃなくって。シーケンサーとしてと言うか。コンピュータでできることは、かなりいろいろあるんですけど、自分の中で合っているスタイルというのは、コンピュータはシーケンサーとしてだけ使って、その他に一般的なシンセサイザーですよね。あとサンプラーと、ミキサー。ミキサーは単純に音を入れるだけのもので、よくスタジオにあるたくさんレバーの付いたコンソールみたいなもんですけど。ていうところですかね、基本的には。他にいろんなエフェクターとかありますけど、それ


© TATSUYA YUSA

は人それぞれで。これでコンピュータのオーディオ・アウトとかをそのまま出力につなげると、本当にできるんですよ。

FR　読者の人にも、どんどんやっていってほしいんですよね。

ケン　なんか音楽やりたいってトライするんだったら、ギターとアンプとか買うより早いし、ある程度のものは作れるんじゃないですか。勘のいい人だったら、練習とか無しでできますからね。

FR　音楽理論的なものはあるんですか？

ケン　僕に関しては、理論ということではないですね。理論ではなくて、やっぱり経験で。

DJカルチャーの中から生まれてきた音楽なので。本来だったら何もプレイできない、ただレコードをかけるだけのDJが、どうして音楽を作れるかと言うと、やっぱ音楽を聞いてきた知識量。普通の人が知らないものまで聞いてきて、ここでこうなれば良いとか、そういうのが経験値でわかってる。DJが自分でプレイできない場合でも、テクニック的にうまいエンジニアと組むというパターンがあって、曲はここでこういうふうな展開になって、こうなればいいとか、そういうことは全部DJが浮かんで。エンジニアが機械を操作していく。そういうパターンは、ハウス以降特に強いんじゃないですかね。ヒップホップもそうかもしれないし。その辺が一緒になると、さらにアーチストとして一段上に行けるというか、経験とテクニックのある、独立したアーチストとしてやっていけると思うんです。

FR　ケン・イシイさんは、作る前は、DJをやってたんですか？　スタートは大学生の頃ですよね。

ケン　ほとんど同時ですね。もともと、中学・高校の頃から、ずっと音楽とか好きで。今は渋谷とかにレコード店がいっぱいありますけど、当時は1、2軒しかなくて、学校の通り道というのもあって、週に何回も輸入盤店とか、中学ぐらいから通ったりしたんです。

FR　どこのお店ですか？

ケン　WAVEができる前の西武の中に入ってた所とか、他に何軒かありましたね。シスコもあったし。あの辺の草分けみたいな店に大体いつも行ってて。ダンスミュージックとかの新しいものが入ってきて、常に更新されていくおもしろさがあったから。まずリスナーとしてがずっと長かったですね。

FR　中学からですか。

ケン　その中で、友達とパーティやろうよとか、DJやろうという話になって。単純なミックスの練習とかはもう十代の終わりからやっていて。ただ、シーンがあったかというと、無くて。その当時は、ごく一部の、何人かの知り合い中でだけ、テクノというのは知られてたから。その中でやりつつ、でもある程度のところになってくると、たとえばDJになろうと思っても、シーンもないし。まだまだ早いなという感じもあったので。それだったら、自分の音楽を作りたいなという気持ちに移ってきて。ま、DJみたいなことも遊びでずっと続けてはいたんですけど、そっちのクリエイターとしてのほうにのめり込んでいって。

FR　一番最初は、アントワープの、じゃないやベルギーのレコード会社から？

ケン　そうですね。ベルギーのゲントっていうところがあるんですけど。三番目なんです。ブリュッセル、アントワープ、次は、ゲントで。

FR　そうなんですか。ファッション業界では、アントワープが話題なので。

ケン　最近そうですね。けっこう、アントワープのファッションデザイナーから、ショーとかのオファーが多いですよ。同じベルギーという意識が強いみたいで。

FR　今、一番すごいですよね、アントワープから出ているデザイナーが。革命的な感じで。

ケン　勢いあるみたいですよね。僕の知ってる限りだと、ベルギーの中って基本的に二つの国民なんですけど。フランス語圏とフレミッシュっていうオランダ語に近い言葉の民族と。今までは、政治的にもフランス語圏が強かったんですけど、最近、文化的にも政治的にもフレミッシュの方が伸びてきて。大体、その辺のデザイナーって、みんなフレミッシュ系なので、多分、フランスのテイストじゃないんだと思うんですよ。オランダのほうのテイストが強いから、だから新しく感じるんじゃないかなって思います。名前もフランスのパターンじゃないし。

FR　そうですね。

ケン　それで、R&Sというレコード会社がゲントにあって、そこが好きだったから。

FR　デモを送って。

ケン　そうですね。

FR　最初に送ったテープの曲が、「ガーデン・オン・ザ・パーム」なんですか？　聞かせてもらったんですけど、いきなりあれを作れたんですか。

ケン　そんなことはないですよ。いくつか作り始めて一、二年したころで。最初はその当時その当時のテクノの音の中で、ギタリストのように、ものまねみたいな、そういうふうなことをちょこちょことやってたんですけど。それやっているうちに、テクニック的には、こうすればこうなるだろうっていうことがだんだん見えてくるようになってきて。それと、既に向こうで流行ってることと同じものをやったところで、わざわざ日本から出て行っても、向こうに同じような才能がごまんといるわけで。同じ音なのに、わざわざ僕とサインしようとは思わないだろうなと思って。それで、その時からコピーというか、まねするのはやめにして。こうなったら自分の好きな音楽をやっていこうって。もともと、オリジナリティがすごく重要視されているジャンルな

んですよ。そう思って方針を変えて、自分の中だけで、頭の中だけで考えたことをやっていこうと思って、曲を作り始めたんですよ。それで、ある程度それに自信が持てたので、デモテープを送ってみたんです。そうしたら、すぐに反応が帰ってきて、この考え方は正しかったなと。

FR　送ったらすぐ向こうから出しましょうみたいなことになったんですか。

ケン　出しましょうというか、すごく興味があって一緒にやりたいんだけど、興味あるか？みたいな感じですね。

FR　で、向こうに飛んだりしたんですか？

ケン　いえ。レコードを出す前には一回も行かなかったですね。

FR　テープのやりとりとかですか。

ケン　DATというものが、10年くらい前に出てきて。テープなんですけど、デジタル・オーディオ・テープ。当時それがポピュラーになりつつあって。今、プロの世界では、マスターはDATというのが中心なんですけど。それがちょうど普通に買えるようになって。自分のところで、小さいミキサーから出して音をそのままDATに記録して。それが、マスターというか、いわゆる原盤ですね。そこからプレスしてレコードになる。

FR　へー、いいですね。ちょっと夢のような世界ですね。

ケン　この10年、15年だと思いますよ、そういうふうになったのも。

FR　机の上で全部できちゃうという世界ですよね。

ケン　本当に。言葉としてもベッドルーム・テクノみたいな言われ方があって、自分のベッドルームで作ったものが、数は少ないとはいえ、世界中に行き渡るみたいな。それは実際の話で。それは自分にとってもすごく夢のある世界で。

FR　今でも、ベッドルームから世界に出ていける可能性はありますか？

ケン　あると思いますよ。ただ、やっぱり、音楽的にも成熟してきているので、クオリティや音楽が強いものであれば、今でも可能だと思いますよ。

FR　何人か出てきていますか。

ケン　日本ですか？　出てきてますよ、いっぱい。いまテクノの中でもいろいろあって、ダンスフロアよりの、ビートでボッボッっていうのでもいるし、R&Sからもシングルを出している日本のアーチストが何人もいるし。ブレイクしている人というのは、必ずしも多くはないですけど。アンダーグラウンドのダンスシーンとか。ダンスじゃなくて、チルアウトとかアンビエントと言われている方面とかでいろんな人がいっぱいいます。

FR　基本ベースみたいなのがありますよね、テクノって。そのために、似たものになるとか、似ちゃったりとかっていうことがあるように思えるんですが？

ケン　そのほかの音楽同様に、生まれてから年月が経ってくると、だんだん真似する人が多くなってくるというか。僕にとっては、今の、例えばアメリカのチャートなんかバーって見てて、8割ぐらいR&Bに見えるんだけども、ほとんど違い分からないですよね。ま、アレンジも似てるわけだし。それに近いですよね。大体、詳しくないジャンルっていうのは、みんな同じに聞こえるでしょ。テクノの中でも、それはやっぱりありますよ。僕が聞いてても、コピーばかりやってるようなシーンもあるし。ただ、名前がひとつ出ている人とか、ずっと何年も前から残っている人というのは、自分の音を持ってますよね。

FR　MTVのテクノ番組の「amp」とかに出てるのって、CDになってるんですかね。12インチシングルとかでしか最新のものは買えなかったりしますか？

ケン　その辺はですね、ダンスフロアのアンダーグラウンドのものにこだわれば、この雑誌にも載っていないような、雑誌に載ったときには既に売り切れているような、そういう12インチのレコードがあるし。でも、あのテレビに出ているとようなものというのは、全部ちゃんとしたメジャー、あるいはインディでも、ちゃんとした会社がビデオまで作って、アルバム作ってるようなアーチストが多いので、あれに出ているのは、みんなCDで買えます。やはり、ビデオも作れなくて、何もできない、何もできないという人は、12インチ出すしかないんですよ。ただたまにその中に、すごく良いのがあったりするという面白さが残ってますよね。

FR　じゃあの番組でやっているのは、かなりメジャーなんですね。映像もありますもんね。

ケン　そうですね。あれは、やっぱり、ある程度整っているというか、アーチストとして、ある程度いった人間が多いんじゃないですか。

FR　音楽として、芸術的なところをおもいっきり追及しているようなのも多いですよね。

ケン　そうですね。やっぱり、テクノの魅力というのは、さっき言ったような、すごく小さいシステムで世界にという部分もあるし。あと音楽的には、ダンスビートという強い要素さえ持っていれば、それ以外に加えるものはすごく自由っていうか。ひたすら単純なものでもよかったりとか、例えばノイズだけでも、ピーとかガーとかだけでも、ビートさえ鳴ってれば踊れるみたいな。そういうものから、コマーシャルな普通の歌みたいなのを乗っけても、それはそれでテクノですよというような。その辺の自由さというのはありますね。

FR　けっこう、現代音楽に近いものもありますよね。

ケン　そうですね、それもあるし。本当にいろいろ変化しやすいというか。

FR　一番深みがあるような気がしますね。可能性としても。

ケン　そうですね。これだけパーソナルレベルである程度作り込めるというところで、

世界中には訳の分からないことを考えている人がいっぱいいるので、そういう人がテクノという一つのフォーマットに自分のテイストを入れることができる。それが、一人一人みんな違う訳だから、変なものや面白いものが出てくる可能性というのは、すごくあると思いますね。

FR　番組とかを見てると、映像もすごく凝ってますよね。すごくお金を掛けているんじゃないかと思うようなものもあるし。

ケン・イシイさんの「エクストラ」のアニメを使ったビデオクリップを最初見たとき、ゲェーすごいって思いました。音楽と映像と。音楽に映像が付いたというよりも、映像と音楽が対等の感じで。どっちも芸術を追及していて。そういう意味では、テクノは音楽と映像とセットになったものとしてもすごいものだなと思いますね。

ケン　そうですね。ダンスミュージックのビデオとかでも、歌ったり演奏してる姿だけをずっと追っかけてなくていいというか。映像にしても、ある程度自由がきく。ずっとアーチストの演奏なり歌を追っ掛けているというものとは違いますので。変な絵にしたりとか。例えば、ケミカル・ブラザーズというのは、このフィールドから出たビッグネームなんですけど。ヨーロッパ中で一位になったような曲があったりするんですけど、本人たちは、ほとんど出てこないので、見ててもなんのことを言っているのか、全然分からないビデオだったりする。

FR　今度のアルバムには、映像を付けるのはあるんですか?

ケン　今回のアルバムに関して、アルバムの発売と同時にはシングルを切らないので、アルバムと同時にはないんですけど。何ヶ月か後にシングルをカットするとき、新しいバージョンとビデオというのを、やろうかなと思ってます。

FR　映像を付けるときは、やっぱり、映像の作家の人と組んでやる形なんですよね。

ケン　そうです。話はよくしますね。「エクストラ」のときもすごく話をして。

FR　あれは、どういう経緯で?

ケン　あのビデオクリップのディレクターの森本晃司さんは大友克洋さんと常に一緒に組んでやってる人なんです。もちろん曲が先にあったんですけど。スピード感みたいなものと、悲しいでも楽しいでもないような、あれはそういう曲調なんですが。自分としては、パワーあるなと思ったので、その辺がうまく出るものはないかなと考えていて。大友克洋さんの強いテイストが、オリジナリティとしても、日本でもヨーロッパでも、すごくアピールするだろうなと思って。ちょっと、話だけでもと思って、知人をたよって行ったんです。そしたら偶然、森本さんはニューウェーブがずっと好きな人で。アトリエでこう絵を描いているじゃないですか、その横に、バーってテクノ系のCDが並んでいて、ラジカセでそういうのを聞きながら作業しているような人なんですよ。彼に言わせると、もともとこういうのが作りたかったけど、そういうチャンスが無かったと。彼のやりたいことを全部ぶつけられると。最初の話ですごくウマが合ったので、ああ、大丈夫だ、任せられるってそのとき思ったから。そこから先は、基本的な部分は、随分任せてるんですけど、

FR　映像を付けたのは、あれが初めてですか?

ケン　そうですね、ちゃんとしたシングルのそういうビデオというのは、あれが初めて、ま、あれしかないようなものですけど。

FR　映像というのは、ビデオの形で販売したりするんですか?

ケン　そういうのは無くて。基本的には放送用で。ポップアーチストみたいに、シングルを出すごとビデオを作るとかというのではないので。ある程度、ポイントを決めてやるっていう感じで。その時その時で、いいものを作って、それがある程度集まった時点で、パッケージとかにしてみたいなと思っています。それが、ビデオなのかCDエクストラなのか、DVDとかになるのか分からないけど。今後のプランとしてありますね。

FR　世界的にも映像込みで販売するという形は少ないですか?

ケン　まだ、販売とまではいかないんじゃないですか。

FR　主にテレビ用に。

ケン　それでも、ヨーロッパとかインディでできることというのは限りがあるので、とりあえず撮ればいいということで、やっつけ仕事みたいなビデオもけっこう多いんですよ。それでも、よく育ってきたアーチストとかは、いずれ、そういうことになってくるじゃないですかね。UKとかで、ビデオと音の両方をやっているチームもあるし。

FR　そういえば映像もコンピュータで作ったりとかしてますよね。

ケン　いや、本当に、そうですよね。

FR　音と映像を全部デスクトップで、部屋の中で作れますね。

ケン　本当に。今は、システムというか、良いコンピュータさえ持っていれば、全部できますね。音では、デコーダーというか、昔だったらオープンリールで回ってた、今あれがそのままコンピュータの中に入るんです。で、シーケンスもできて、ソフトウエア上のシンセサイザーもあるし。プラス、映像の編集もできるし。どこかから取り込んでくるなり、そこで作るなり。本当に、一台で絵と音を同時に作れますから。最初のパート、ビートはこれ、絵はこれって、実際可能ですから。本当に、いい世の中になったと思いますよ。

FR　そうですね。コンピュータも安くなりましたしね。１００万円ぐらいあれば、ある程度、揃えてスタートできちゃいますか。

ケン　いまそんなに掛かんないじゃないですか、まず始めるとしたら。

FR　じゃあそれくらい予算があれば、けっこうな機材が揃いますか?

ケン　できますね。そうなってきたから逆にいま、最終的なセンスというところが重要なんですよね。テクニックでの、本当の玄人と素人の差が縮まってきた分、本当のセンスをどうやって得るかみたいなところが重要ですよね。

FR　映像と音がセットになった形で、例えば、DVDとか、映像も込みで販売というかたちになっていくのかなと思っているんですけどね。

ケン　そうでしょうね。

FR　CDだけだと、映像が残っていかないじゃないですか。もったいないなーって思ってて。

ケン　今回は、ビデオではないんですけど、CDエクストラにしてるんです。

FR　そうらしいですね。音楽CDなんだけど、コンピュータに入れるとCD-ROMとして動くパートがあるんですよね。

ケン　僕は、CDクキストラの部分は直接制作はやってなくて、話し合いとかで進めてるんですけど。それが、けっこう、僕が期待していた以上にすごく良いできで。映像としても非常に面白くて、ビデオのようなストーリー展開があるということじゃないんですけど。過剰なインタラクティブ性というのは必要ないと思ってたんですけど、本当にちょうど良いぐらい。例えば、その中にいっぱい曲が入っていて、それごとに映像が出てくるんですけど、1曲1映像ということじゃなくて、ランダムに、何パターンもある映像が、その時その時でランダムに組み合わさって。しかも、ポインタをマウスで動かしてやると、映像がそれに影響されて変わっていくみたいな、そういうのもできてきたんで。音楽に集中するだけじゃなくて、画面だけ見てても面白いんですよ。ビデオという作品だけじゃなくて、そういうテクノロジーとかの面白い部分だけを引っぱってきて、くっつけるっていうのが、これからのスタイルのひとつになってくると思うんですけどね。

FR　CDエクストラバージョンっていうのは限定ですか。

ケン　いや、それは残るみたいですよ。

FR　かなり新しい試みですよね。

ケン　最近は、ぼちぼち、CDエクストラで、ステレオにも、パソコンにも入れられるっていうのを作ってるアーチストもいますけど。今回は、テクニックとして新しいものを、かなり入れたので。今までは、オマケ感が強かったんですけど、今回は、その域を越えられたんじゃないかなと思います。

FR　制作にどんどんお金がかかってきますよね。

ケン　そうですね。僕の知らないところでというか。でも、根本の部分は変わらなくて。これからは、いろんなプレーヤーとのコラボレーションということも考えているんですけど。今回は、一人でやることがコンセプトとしてあって。音楽そのものは、本当に身の回りで全部完成しているものなので。その辺は今までと変わらないです。回りの環境、セールスなり、そういう活動なりが大きくなってくるということはありますけど、本質的な部分の自分の作業というのは、変わらないです。

FR　例えば、高校生とか専門学校生とかで、音楽に行きたいなと思ってる人がいると思うんですけど、どうやって勉強していけば良いんですかね。例えば、機材をセットするにしても知識が必要だし、本とか雑誌とかはあるんですか。

ケン　最近は、ダンスミュージックの雑誌とかもあって。専門誌でもどこの書店でも並んでいますから。例えば、DJやりたいとか、作ってみたいとか思っている人のためにハウツウが書いてあったりします。それで、少しずつ勉強していくとか。コンピュータも今は全部が全部、難しいわけじゃないんで。実際はよく知らないですけど、コンピュータ雑誌とかは、DTM、デスク・トップ・ミュージックって言って、ちょっと別の方向に行っちゃったりするんですけど。ポップスとかを、自分で演奏できますみたいな。どっちかというと、音楽よりのところから始めていくといいかもしれないです。テクニックよりも、あとはノリで。自然に、いっぱい音楽を吸収して。例えば、クラブ行ったり、レコードなんかをいっぱい聞いて。そうすると、どういうようなものを作りたいというのが分かってくると思うので。僕の回りとか、ヨーロッパにもアメリカにも、知り合いのアーチストはいるけれど、学校行って勉強した人なんてだれ一人としていないので、それは、まず、問題ないし。

FR　そういう学校もあるんですかね。

ケン　ありますよ。あと、UKだと、売れてないミュージシャンも多くて、貸しスタジオもすごく多いんですが。そこにエンジニアがいて、素材だけ持って行って、こういうのが作りたい、ああいうのが作りたいって言うと、全部エンジニアが作ってくれるところまであるんですよ。

FR　そうなんですか。

ケン　インディのアーチスト用に、そんなに、コストが高くなくて、自分で好きなレコードを持っていって、シンセはこういうふうにやりたいとか。機械とかいじれなくても、断片だけ持っていけば、形にしてくれるみたいなシーンもあるし。あと、ダンスミュージック用に作られた小さい機械で、クオリティ的にも、いわゆるベーシックなテクノみたいなのがそれ一台できるというのも出てるから。難しくはないと思いますね。DJのミックスとかだけだったら、単純にビート合わせて重ねる面白さもあるんだけども、その程度だったら、数カ月一生懸命やればできるようになるし。自転車を練習するのと同じようなものなので。スタートのチャンスはだれにでもあると思います。今までの他の音楽とかアートの方面に比べて、スタートは簡単だと思います。

FR　逆に、それだけ、感覚の部分に左右されてきちゃうので、本当に売れて行くの

は難しいかもしれないですね。
ケン　ある一線から上というのは、それが問題になってくるでしょうね。
FR　技術だけではプロになれなくて。感覚の部分での勝負っていうのは、逆に厳しい世界でもあるかもしれないですね。
ケン　センスとかって、経験によって磨かれるものだと思ってるんで。まずは、本当に、いろんな音楽をいっぱい聞いてみるというところから始まるんじゃないかなと。
FR　テクノ系のCDとか、レコードとかは、海外からもどんどん入ってきてるんですか。
ケン　もう数限りなくというか、普通の大きいレコード店ありますよね、タワーとかバージンとか。あぁいうところに、テクノコーナーがあって、そこで。
FR　けっこう揃いますか。
ケン　僕も、いろんなところへ行ってますけど、アンダーグラウンドなものも含めて、東京というか、渋谷はニューヨークと比較すれば、渋谷のほうが、全然あるし。
FR　そうですか。
ケン　ロンドンとかでは、スペシャライズド・ショップがいっぱいあるけど。東京にいれば、大体、世界中のものが揃いますよね。
FR　音楽を作っているときに、日本って意識します？
ケン　オリエンタルなメロディとか、そういう意味でですか？
FR　音楽の中に、例えば、日本性を入れていきたいとか。
ケン　僕は意識はしてないですね。トラディショナルが嫌いという訳じゃなくて、僕の今までのやり方というのは、意図的にオリエンタリズムを入れてというのじゃなくて、ごく自然に、作りたいものを作るということでやってるんで。全く気にしないで好きなものだけを作ってますけど。その中に、西洋人とかは、なんか、オリエンタルなものを感じたりするらしいですけど。ただ、それはすごく自然なもので。僕にとっては、日本だけじゃなくて、例えば、周辺の韓国とかベトナムの面白いパーカッションミュージックなり、面白い楽器の音色なりがいっぱい存在してて。単純に、一つ一つが面白いなという。その面白いなという部分に引っかかったものは取り入れるというか。その程度で。ただ、いろいろな地域や国でやってたりすると、日本が見えてくるというのはありますね。社会としてとか、マーケットとしてというのは、やっぱり意識としてはついてくる。けれども音楽そのものとしては、ピュアものだけを取り入れていくみたいな。
FR　今あるヨーロッパのシーンとは違うもの、自分のオリジナルなものを作っていこうという感じですか。
ケン　そうですね、シーンというのは、常に、知っていなきゃいけないと思うんです。どういうふうに流れていくかっていうのは。僕も、もともと、DJ、リスナーだというところは常に続けてるので。その中で、全くシーンとリンクしなさすぎるのはやりたくないし。シーンとリンクしつつ、自分のオリジナリティというのが常に出ていくように心がけますね。
FR　でも、そういうシーンを知るというのは、専門家の人は、いろいろ入ってくるでしょうけど、僕みたいにテクノに興味を持ちだしたばっかりの段階で、そういうシーンを理解するためのメディアって、あまり無いんですよね。
ケン　僕が聞きだした時は、本当に、全く無い時から日本で聞いてるから。今は一般誌でもずいぶん取り上げられることが多くなってきて、僕個人のプレスにしても、テクノシーンを取り上げるプレスにしても。そういう意味だと、まず取っかかりとしては、それだけでもいいというか。すべての人が本質まで理解する必要はないと思うんです。僕が他のジャンルの音楽を聞く時も、単純に、聞きざわりがいいねとか、ノリがいいねとか、そういう部分なわけで。結局、感覚的にいいなと思えるところまでいけば、全然いいと思ってるんです。リスナーを限定するつもりは全然ないし。これを理解してくれないと、オレは聞いてもらいたくないとか、そういうのは一切無いし。気軽にいいなと思ってくれることが一番いいことだと思います。
FR　あと同じ音楽ビジネスの中で、ビッグビジネスがとなりにあるわけじゃないですか、100万枚セールスとか。その辺に対しての考えは？
ケン　セールスとかってそんなに気になんないんですね。基本的には、自分のやりたいことが続けられればいいんだし。例えば、同じようなテクノシーンから出てきて、100万枚とか何百万枚とか売っているバンドが2、3あるんですよ、世界には。プロデジーとかケミカルブラザースとか。その辺とかは、音的にはロックに近く聞こえたりしてるんですけど。基本的には、もともとダンスミュージックから進化してきた人達で。そういう可能性というのも、今はあるので。自分はアンダーグラウンドだと割り切り過ぎなくてもいいと思う。本当に自分のやりたいことだとか、自分のオリジナリティを追求してれば、もしかしたら、化けてそっちの方に行くかもしれないし、メガセールスとか。あるいは、自分の道だけを進めるという、仙人化していくというか、そういう道もあるだろうし。それはその人その人のオリジナリティで、結局その先どうなるかというのは、たまたまいっぱいの人が好きになるか、少数の人が好きになるかの違いでしかないから。　END.

前略お元気ですか？
(秘) あきあき新聞 (秘)

第4回☆ あきあき新聞のコーナー。
毎回おたよりを全国の方々からもらって、すごくうれしいです。おうえんありがとう♡
がんばって私もお返事かいてるヨ。これからもよろしくおねがいします。はずかしいコト→
第1回のこのコーナーでベレーぼうが、ベレーはばにまちがってました。ヒデがつい最近、教えてくれて笑っちゃいました。あと12月号の表紙は背中見えてるし、ガチャペルがばれました。体がやわらかいコトも知りました。

コバヤシアキ18才
現在、もてせんをねらう





かみのを☺ 伸ばすか切るか、まよったところ、冬限定で伸ばすコトに決定。べりショートくらいにしたーい。
男の子からは、「伸ばした方が、モテル」と言われ続けていたものの、「関係ないや！」と、かりあげノンストップだった私。
カラーリングは似合わないので、ずうっーと、同じスタイルだったので今回は自分でも楽しみだな。
果たして、モテ²になるのか!? そして、今はビックリ、茶ぱつなんかにしちゃいました。ゔー、ふつうも、なが²、ここちよい。
「いけせん」めざしてるんです。あと、自分の中であついのは、トップを2つにむすんで、ポンポンやフワフワの羽根をつけてニーハオスタイル。チュンリに、なりきり。
今月のプリクラ→くみと2ショット
メイク☺ マイブームは、ピョピョ～インコちゃんメイク。
友のK子から「あき、おかめインコみたい」と言われ、名付けられ大フィーバーです。発色のいいアイシャドー（オレンジ・ピンク・赤・水色）を2色使って、目元をはで²にするの。ほほ紅・マスカラを忘れずに。口びるは、グロスのみ。かみの色・服の色と合わせてLOVE LOVEインコメイクしちゃおう♡これで君も「いけせん」よ。

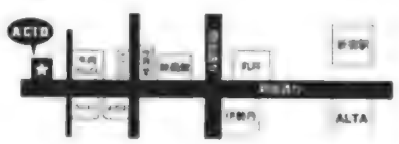
アホしゅん・バカかず・あきひめ（VOL.1 ムサシNightの時）

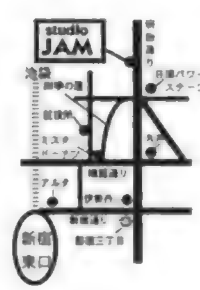


日美☺ 今、授業でやってることは、リーゼントのワインディング。フェイシャル。スカルプチャーカール。
不器用な私は人より倍、練習しなくちゃついていけないのでがんばってマス。
うちのクラスでブレイクスンゼンなのは、ジャージ。
私もアディダスの赤のズボン買っちゃった。
楽ちんだし、あったかいのでGOODですよ。
どうですか?! ネイル☺ けっこうマニキュアの色も集まってきました。でも基本は黒。
私なりに考えたネイルテクで楽しんでるよ。簡単ですよ

ライブする場所 ↓↓

"Thunder Ball情報"
12月ライブ予定
☆ 8日 新宿JAM（OPEN 6:30）
＝ラブピックス・ファッキンライフ・ドリファナ＝
☆ 19日 新宿JAM（OPEN 6:30）『Buzz Fuzz Fuzz』
＝ファイヤーエンジン・ハウリングギター＝
☆ 16日 OR 21日 新宿CLUB ACID『ムサシNight ～We are PINHEADS』
＝DJ, しゅん・かず・しまくん・ゆうくん・ひで
今年中にレコーディングに入り、来年来定、デモテープ・CD・レコード発売決定!!
※ぜひ²来てネ❤





最後まで読んでくれて、ありがとさん。
寒い季節になってまいりました…
私もダンナがほしいのだ BYE²

● 12月号よみました。テストがようやく今日で終了したので急いで買いに行きました。
山下隆臣氏のインタビュー、とても楽しく拝見させていただきました。やっぱり山下さんかっこいいっスねぇ。
● ビューティービーストのニット帽を参考にこの間自作巨大ボンボンつきニット帽を作りました。真っ赤でかわいいです。



● 制服の着方、ということで私の制服をかいてみました。うちの学校(女子校)は個性的な着方を探求している人が多くて楽しいです。
"自分らしさ"が出ていれば、どんなかっこうでもオシャレというのではないでしょうか。(オシャレってなんだろね、と友人と語ったのを思い出したので。)
● 部活の顧問の先生に、「自分を着飾らないように」といわれました。着飾るってどういうことでしょう……。私はそんな気持ちでモノを身につけてるわけじゃないのに……。おしゃれで(服装で)自分を表現しているつもりなんですけど、分かってくれない人もいるんですよね。これが自然でいたいと思う自分の姿なのにねぇ。

まわりの人々の着こなし法



スカート丈長めの人が多いです。コギャルが浮く。
埼玉県 斎藤フミ 高2

F:いろんな学校がありますね。制服のオシャレを自由に楽しめるところとそうでないところと。それに中学校はやっぱり厳しい。斎藤さんの高校はみんな楽しんでますねー。今度は写真を送ってくださいな。見てみたい!

今、わたしが実行してる、制服のオシャレを紹介しますね。
㈲白いポリエステルのスカーフ→ネクタイ or リボン
㈪白いみじかいソックス→黒 or ヴィヴィアンくつした
㈫スカートを安全ピンでバシっととめる
まぁ→うちの学校はセーラー服なわけですよ。紺地にあずき色のラインがはいってます。だから、その色にあった、あずき色のチェックのネクタイとかにしてます。あとは、制服にあう、お化粧とかかみの毛とか、考え中です。おしえてください。
(埼玉県　あまつ　13才)

私は中2の女の子です。FRUiTSはとってもかっこよくて、イナカに住んでいる私にとってはあこがれの世界です。ピンクやブル→の髪をした人たちがいっぱいいて…うらやましいです。私の学校は今どき珍しいルーズ禁止の学校です。しかも先ぱいとのカンケイがキビシク、校則ではOKのoneポイントもこわくてはけないし…パッチン止めもできません。反こうできない自分もくやしいケド…。でもFRUiTS見てるとなんかDreamが広がってウレシイです。私はデザイナーになるってゆう夢があるので服をつくったりあみものをしたりしてオリジナルブランドを作っています。ブランド名は「HAPPY MIND」といいます。じゅくとかいって、なか²服作れないけどもしいっぱいつくれたら、FRUiTSに載っけていただきたいです。だいたんなおねがいしてスミマセン。でも私のゆいいつのたのしみは服作りなので…。どうかよろしくお願いしますって言ってもまだ²先の事なんですが(笑)…。でもがんばります!
(広島県　キョウコ　13才)
F:きびしいですねー。中学のときってなんであんなに先輩こわいんでしょーね。ここはガマンで「HAPPY MIND」をひたすらがんばって!楽しみにしてます。

(岐阜県　ユッキィ)

*FRUiTSさまへ。
今、しんけんになやんでおります。おたすけくださいませ。
あの、さいきん私のまわりの人たちが、みんな、コギャルファッションをしてきていて、私のような個性派の人が少ないのです。それで、みんなコギャル派だから、私は、どっちをきたらいいのかわかりません。今、私の●髪がたは、前髪ピっちってそろったおかっぱですが、まわりのコギャル派たちになんて言われてるかもわかりません。きっと、「なにアレ」とかいろいろいわれてると思います。
ほんまでなやんでいます。たすけてください。
おねがいします。FRUiTSさま。
(山梨県　ヒロオ　14才)
F:2つは全然違います。みんなに合わせる必要はないと思います。自分が本当に着たい服を着たほうがいいです。それでも悩むようだったら、試しにコギャル系もやってみて、自分の生活にしっくり来るほうを選んでみましょう。

はじめまして。FRUiTSいつも勉強よりも力入れてよんでいます。私の人生相談をきいて下さい。私はFRUiTSにでてくるような人々にあこがれ、目立つのも大好きです。今、高3ですが学校でもやっぱり目立っていたいので髪もかりあげに頭つんつんしています。まゆもも気合いれて[illegible]感じです。しかし、親がうるさいんです。目立とうとするな!!! まゆをなんとかしろ!!! 普通でいなさい!!! 中学ぐらいの時から、ちょっと流行した服装をすると、普通のカッコウをしなさい!!! って。もう、うんざりで、最近はバイトの、より道をして、おそくかえって、ごはん食べないで顔あわせないようにしてます。買い物するときも、家をでる時は親に絶対!! みつからないように、音をたてない猛ダッシュ(?)で家をでています。これなのはつかれました。おしゃれなみなさんは親とか何もいいませんのでしょうか? それとも1人ぐらしとか? 私も早く就職先みつけて自由に1人でくらしたいです。どうかおしえて下さい。
From しずか♥
イカくさバッヂ
(千葉県　しずか)
F:けっこうみんな親からうるさく言われてると思います。1人暮しは自由だけどそれなりに大変。でもいずれ自立しなければならないのですしね。



(奈良市　29才)

企画を募集されていると聞き、自分なりに考えましたが、一番最後の「載っている服は、今販売していないことのほうが多いと思いますので…」と書いてあって思ったのですが、「通販」を、FRUiTSの誌上でしたらどうでしょう。服にかぎらず、カバン、クツ、アクセサリーなど、メーカーの協力でしてみたらどうでしょうか。FRUiTSの読者は、全国的で、場所によったら、買いに行きたくても、買えない人もいると思います。例えば、卓矢エンジェルの様に大阪や名古屋でしか展開していないものを、東京や、広島の人などが買えるように通販のページを作ってください。お願いします。
(大阪市　ヨッちゃん)
F:なるほど。あとリクエスト多いのが誌上フリマーケットなんですね。誌上フリマは編集部として気になるのは、金銭的なことです。うーん。

こんにちは。僕は今、淡路島のある高校に通っていて、今授業中です。
はっきり言って淡路島は8割がヤンキーです。
女はコギャル系です。
今(ここ3年ぐらいずっと)、この学校の女子の間では、アニエスとスーパーラバーズがはやっています。あとシノラーが流行ってます。
男の間では(なぜか)キティラー(ハローキティ)が流行ってます。
学生服はボンタンが主流です。机には変な単車の絵と詩みたいなものが書いてあります。今、ボンタン●の腰ばきが流行ってます。
写真とる時はウンコすわりです。頭は角がりです。
そのくせ靴はオールスターの真っ赤とかムラサキとかはいてます。
あと、ボンタンのすそをバッシュの中に入れてる人もいます。
淡路島はずっとこんな調子です。だから僕は友達が少ないです。
来年からは大阪で住むことになるので、ホっとしてます。



F:面白い。(笑)この詩?は気合い入ってる。

(新潟県　カオリ)

みんなよくカップルでFRUiTSにのってるけど、どうして、オシャレさんなの2人共?私の住んでる方では、「イケテルオシャレ」がすくないのん!FRUiTSのみなさんは、すごい彼氏と、オシャレ楽しんでるなあって感じで、みてて、すごいうらやましい&そんな人を見つけられて、すごい幸せな人だなあって思っちゃいます。やっぱ彼とショッピングしたりしても、服とか一緒に選べるし楽しめるし…。
みんなは、今の彼と、どういうとこで知り合ったんでしょうか?あと、周りにそういう、「ハジケたかっこする人」がいない場合、どうやって、好きな人を見つけたらいいのでしょうか?
誰かおせーておせーて*
(静岡県　あこ)
F:近くにおしゃれスポットがあれば、そこにいる子に声かけて友だちになってみては?それからだんだんグループになって、友だちが増えていくみたい。

mini FRUiTS

寒くなりました。
みなさん風邪をひかないように、
気をつけてくださいね。
でもコレクションの時期になって、
ショーではもう春夏の洋服になっ
てますけど。早い早い。



F:FRUiTSで、そういうのカッコよく着てる子のページを見せて理解してもらうとか、フリル系のは自分で作ってみるとか、買い物のとき悩んでるふりして、お母様をたくさん歩かせ、疲れさせる、疲れてくるとどうでもよくなってくるから。買ってくれるかも、とか?働くようになったら、自分の好きな服が買えますね。

FRUiTS様
こんにちは。私は6カ月の息子を子育て中の主婦でやんす。家事と育児に追われる日々。ため息がでちゃうワ…という時に一服の清涼剤のフルーツざます。今の若者は本当にオシャレ。見るとスカーッとするわ。羨ましい。キィー(くやしい)。私は約10年間PINKHOUSE、スクールガール、ロリータ、パンク、カラスルック(笑)など着てみたケド、どうも自分の気持ちにピタッとこない。(パンクロックは大好きよん)結局はPINKHOUSEなの。いくつまで着られるかしら。
ちなみにダーリンは年中、着物か作務衣と下駄デス。子供は古着で充分
それでは皆様カゼをひかれぬ様…
FRUiTS応援してまーす♥
(東京都　長尾　26才)

私は

氏名：小林 紅（べに）

類名：霊長類　　性別：メス♀　　ガソリン：O型

科名：ヒト科　　製造年月日：2001,11,2　　生息地域：原宿 etc…

種名：ホモ－サピエンス　　賞味期限：製造日より36年　　居住地：町田市

です。フルーツ読者のおしゃれ人の方々友達になっていただきたい。見かけたらお声をかけてください。こんな言葉使いをしているものの、実は明るい。この書き方は故意であります。ジョークのつぼが変なので、よく「変わった人だね」と言われます。それ、すなわち変人である。そのような生命体でございます。

今、原宿でおしゃれな友達がたくさんできたので、乾燥しきった花が水を得たようです。オールしたり、お泊りしたり、とっても楽しいです。でも地元（居住地）では友はいないので、水からあげられた魚のようです。

唐突ですが、私の好きな物について。まずはお友達、今年の夏からできました。大切です。そして音楽、色々好きです。最近は昔の歌謡曲がきてます。ピンクレディーとか、そういったものです。それから、宗教音楽（讃美歌とか）や、童謡なんかもです。他に、読書も大好き本大好き。映画、絵、カメラ、服、何かを作る、メイク etc… とっても多趣味です。

友達が出来てから、すべてが楽しさを持ちはじめました、私の中で。それは良き事。そんなお友達を紹介します。と思ったけど載せきれないのでごめんなさい。

色々ありまして、今度から人の家に泊めてもらうことが増えそうなので、そのときはよろしくおねがいいたします。（もしかしたら友のおやピーと同居するかも？否、したい）私事でもうしわけない。

もう一つ私事で、今度紅ブランドを作ることにしました。ブランド名はまだ未定です。カバン、フクセ、リメイク服、その他変な物などを売ります。量は少量生産です。同じ物は基本的に作らないつもりなので、そんなところもウリです。路上販売です。よろしく。

［求む］音楽のできるおしゃれ人の方を求めています。作曲ができる方、どうか友になってください。あなたが必要。

一部の友の写真のってない人ごめんなさい。



デビル　タカピー
たえちん　私　おかピー



友達募集

Ⓐ FRUITS かなり、好きです。
私は、あまりオシャレじゃないですけど、ファッションに興味があるので、今、学校で勉強中です。オシャレな人、オシャレに関心がある人、男女問わず、年齢問わず連絡くださいっ。
(P.N Aチャン)
（愛知県）

Ⓑ

Ⓒ こんにちは。毎回、楽しく読ませてもらっています。
今回は、お友達がほしくて手紙を書きました。私の友達はみんないい子なんだけれど、服の趣味が合わなかったり。
（埼玉県　ブースカ）

Ⓓ ともだちぼしゅう
（奈良県）

Ⓔ （青森県）

Ⓕ （兵庫県）

Ⓖ トモダチなって→♡
らいねん（1998ねん）から東京にスむ！ハズ。モードイくの。（多分）ヘアメイクです。（なるのよ）
♡自己紹介♡
・ナマエ→さやか
・トシ→17才
・うた→黒夢、charaちゃん、ACOちゃん etc…
ムラサキ色だいすき！あとは ひょう柄 ラヴ♡ そして あきちゃん ファンです。
まだ おしゃれ未熟モノ だけど ワかってくれる子が欲しい！Punkとか おしえて！もちロン 服 だいすき♡
てがみくだサイ！たのむよん。
（新潟県）

Ⓗ （栃木県）

Ⓘ 友だちいっぱいほしいです。一緒に買い物いってくれたり、クラブいってくれたりしてくれる友。私の大学（女子大）にはFRUiTSにのってるよーな格好した人はいなくってサミシーです。（でもみんないー人）好きなブランドは特にないけど最近の注目はシンイチロウアラカワ。最近ハマってるのはCHARA Junior sweet Rockやパンクも好き。テクノについてはほとんど知らないケド、ハマってみたいので誰か伝授して下さい。あと写真とるの好き。現像も自分でやるの。
（東京都　しましまのバンビ）

Ⓙ 僕は名古屋に住む、18才の大学1年生です。
オシャレ好きな人、友達になりましょう。
好きなブランドは、クリストフ・ルメールです。
できればプリクラも一緒に送って下さい。
返事は120％。
ちなみに僕は神戸出身で関西弁です。
ペンネーム　SHIN（愛知県）

Ⓚ （奈良県）

Ⓛ 私は鳥取県民のいなかっ子です。おしゃれは大好きだけど、よい服なんてもってないし、おしゃれな友人もいません。ここらへんには当然よい店もなし、よい物も売ってない。フルーツにのれそうなかっこええ人もなし。で、つまらないです。そこで鳥取付近に住んでる人で「私もおしゃれ仲間がほしいの！」という人、お手紙ください。一緒にアソボウ。私がやりたいのは大阪のモード系か ラブリーパンクですよ。16才で高1です。

Ⓜ

友達になりたい人は、編集部あてのハガキに「友達コーナー」係と明記して○さんと文通したいと希望を書いて送ってください。

↓

1ヶ月後編集部でまとめて、友達募集した人にお届けします。

＊友達を募集したい人からの、お申し込みが殺到しています。編集部ではなるべく全員を掲載したいと思っているので、しばらくの間、お申し込みを締め切らせていただきます。わかってね。＊

シンイチロウ　アラカワ
ホンダTシャツ（STREET編集室バージョン）プレゼント
当選者発表！

神奈川県	石川　英理子　様
三重県	宇田　敏子　様
長野県	竹村　悟　様
高知県	池田　綾　様
大分県	柳川　奈々　様

読者ページを作りましたので、送っていただいたお手紙は掲載されるかもしれません。名前を載せられると困る人は匿名希望かペンネームを書いて下さい。できれば葉書にまとめて下さい。
それと、FAXでお便り、質問は送らないようお願いします。きれいに印字されず読めない場合が多いので。

こんなインタビューをして欲しいというご意見ご要望募集。

大阪に続き、福岡、仙台、名古屋、神戸あたりを狙っています。他の都市を含めて情報を募集します。こんなことが流行ってるとか、取材するならこの場所だとか、美味しいお店とか。情報下さい。

beauty:beast

more than one culture of origin

インタビュー（part 2）山下 隆生

TAKAO YAMASITA

山下　アタッシュドプレスもいろいろ回って、セカンド・ビューローのシルビー・グランバックさんに最後に会ったんですよ。そのときは、どういう人なのかも知らなくて。オフィスの待合室にヴィヴィアンのマリエとガリアーノのドレスが掛かっていて、すごい、こういう人達をやってるんだって。シルビーはすごく暖かい人で、「コンセプトはなんですか？」って聞かれて。「コンセプトはヘイト・アンド・ウォー・フォー94です。」って言ったら、「なんで憎しみを言いたいのか。」って。僕は「ラブ・アンド・ピースの裏返しの言葉として、憎しみと戦争という言葉を持ってくることで、よりラブ・アンド・ピースという言葉がフォーカスされるんじゃないか、自由解放的なファッションを作りたかったから。」っていう話をしたら、「やってみよう。」って言ってくれて。「私たちは、こうやって服を預かって、大事な人が来たら見せるのが本来の仕事で、あとは、コレクションのサポートの仕事をやります」と。

FR　けっこう費用は掛りました？

山下　そうですね、シルビーが言ってくれたのは、「だれだって、最初は、お金にならない。クリエーターは最初は儲からないんだ。」って。シルビーには迷惑掛けっぱなしで。

FR　でもお金はシビアにとるんですよね。

山下　ビジネスとして取れる分は取る。でも、だんだん回を重ねるうちに分かってくれるようになって。あるときの会場費は無料だったんですよ。シルビーが、「友達が無料で貸してくれて、あなたのイメージに合う場所があるから、そこでやりなさい。」って。本当に彼女は、親身になってサポーティングしてくれて。「この服は好きだけど、この服はもうひとつじゃない？」とか、も言ってくれる。「コムデギャルソンとかヨージ・ヤマモトのような服をパリで見せても、多分いらないと思うから、あなたが本当に好きな服をたくさん作ってきて。」「パリの人はこの辺は好きでしょう。」とか、すごく明快に言ってくれるんですよ。気持ちがいいくらい。だから、ショーの服も、いっぱい作っていって、パッキングの中にそのまま戻しちゃう服だとか、途中で変えてしまう服だとか、短くしたりとか。パリに行くと、そういう作業が多くて。そうしながらアダムともスタイリングを組んでいって、向こうに行くと空気が変わるというか、着る人も変わるから。

下見をして日本に帰った後に、いろんな人に相談したんですよ。パリでやることってどうなんですかっていうようなことを。そうしたら、90パーセントの人が、まず東京でやりなさいって。東京に行って、順番を踏んでやらないと駄目だってすごく言われて。デザイナー人生終わりだよって言われたり。

FR　え、パリでやるとですか？。

山下　東京を飛ばしてパリに行くなんてだめだよって、東京でもっと出会う人がいるでしょうって



FR　3回程続けてパリでやったんですよね。

山下　そうですね。94年、95年、96年の間で3回。その間1回は阪神大震災の災害が原因で行いませんでした。

FR　ビジネス的な反応はどうでしたか？

山下　そうですね。展示会にも参加したりしてたんですけどね。例えばロンドンコレクションの場合、ショーの前に展示会場で服を見せてたりしてるじゃないですか。やっぱり、クリエイターというのは、コレクションの前に服を見せるんだって。リサーチに来た時に、コレクションの前にちゃんと展示会をやってたんですよ。やっぱり、こっちはまずビジネスがあって、ファッションショーというのがあって。パリというのは、ハクが付くみたいな部分、最初はあったんですけど。でも、バイヤーの人と話してるなかで、この服を日本からパリに送ると、私たちのプライスにするときは、ヨージ・ヤマモトよりも高くなる。コムデギャルソンよりも高い服になりますよと言われたんですよ。売れるのも、菊とか鯉だとかのプリントのTシャツで。こういう商売をやってても駄目だって。ただ、パリでの展示会の時に、ロンドンの工場の方と知り合いになれて、UKラインというのが作れる契約ができたんです。96年から、パリをやめて、ロンドンで物を作って、日本国内のディストリビューターを、まず固めようとしたんです。それがだんだん、今の動きにつながっていくんですけど。でもUKラインも、3シーズンで終わったんです。結局、クオリティコントロールの問題で、大喧嘩して。FOBプライスとかも、急にポンドが上がったりするじゃないですか。それにインポートのシステムを作らなきゃいけないことも大きな問題で。今の段階では、UKラインもストップなんです。

FR　ロンドンで作っていた理由って、何かあるんですか。

山下　要するに、コレクションをパリに戻したかったんです。

FR　できればヨーロッパでも売りたいと。

山下　そうです。買いやすい値段で、現地で生産して、現地の若い人たちが着ている状況にしたい。国内も発想的には同じなんですよ。日本で作っているものを、できるだけみんなが買えるようにしたいなというのがあるんです。国内では、良いものをとことん作ることと、買えそうな値段で良いものを作る方法を掘り下げる作業やっていて。同じ発想で、ヨーロッパにはヨーロッパで作って。やはり、若い人に着てもらわないと、何の意味も無いし。

FR　今の拠点は、東京ですか？

山下　今は東京ですね。生産基点は大阪に置いて、生産発注とか素材をまとめて出す役目をしてます。工場は、各地に、和歌山だとか秋田だとか。広報と企画は東京で動いていて。

FR　そういうことがありながら、だんだん大きくなってきたんですね。

山下　そうですね、徐々に。パリでやってた2年間に、東京でも、ビブレの店ができたりしたんです。で、ビューティ：ビーストというのは知ってるんだけども、どんなコレクションをするんだろうとか、どんな人が作ってるんだろうって、すごく東京のお客様が言ってます



って、スタッフに言われて。ショーをやったとしても、大阪でやったりするじゃないですか、当時は。パリ・大阪だけとか。東京でやって日本のみんなが来てくれるように、みんなとコミュニケーションすることが先決だねというので、96年からは、東京コレクションを始めて。

FR　ビブレのお店を作ったのは、何かキッカケがあったんですか？

山下　応援していただいて、買い取りをしていただいて。ビブレ本社の直営ショップとして。

FR　あそこは、ビブレ経営のお店なんですか？

山下　そうなんです。ビブレにアークというお店があるんですけど、最初はそこと取り引きをしていただいていて。ヨーロッパブランドとかをセレクトしている、面白いお店なんですけど。そこからビブレさんが取り上げてくれて、あの場所を提供していただいて。

FR　ビジネス的に急に大きくなってきたのはいつ頃なんですか？

山下　それはやっぱり、南船場の大井さんの店ですね。あのピュアプラスができてから。大井さんはずっと顧客だったんですよ。顧客というか、アトリエに来ては、「これ良いなあ」とか言ってくれる方で。古い時期のジャケットとか持ってて。もともとアパレルの営業マンだったんです。「絶対、この服は売れるよ！」とか言ってくれてたんです。そしたら「おれは、決心した。」って言い出して。「おれは、独立するから。」、「君の服を売る店を作ろう。」って。それが南船場のお店なんです。彼が、丁寧に一人一人に売ってくれるようになって。その翌年に、ビブレさんの話があったんですよ。ビブレさんは、彼の店は見てなくて、別の部分で、アークさんがきっかけで。それで大阪と東京にアンテナ・ショップができて。

FR　直営店は無いんですか？

山下　代官山の元アトリエだったところを、7月に初めての直営店としてオープンしました。

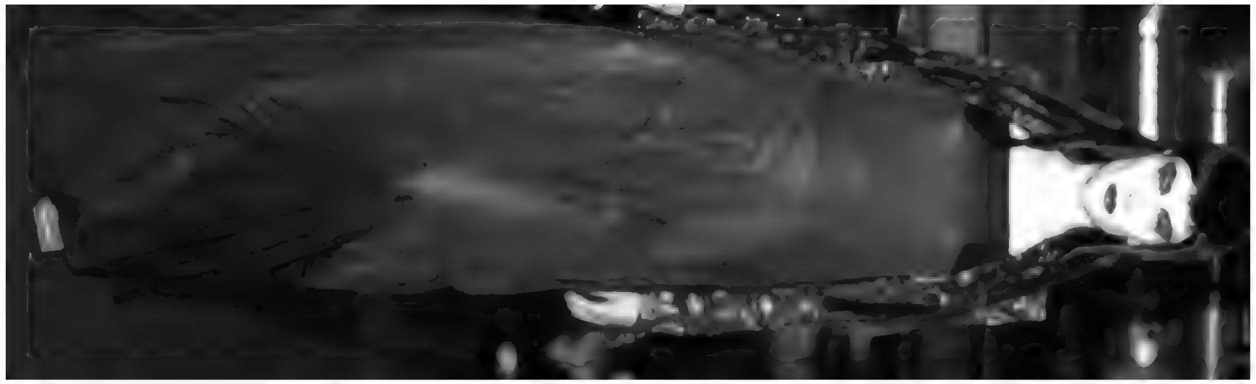
FR　最近の状況はどうですか？

山下　けっこう、もう最近の話に入っているんですけど。いままでいろんなセレクトのお店の方とお付き合いをしてきたんですけど。ここにきて、そのオーナーの人の中で、「お前と一緒に歩いていこう。」って言ってくれる人たちが、急に出てきて。お客さんもだいぶ増えてきたというのもあると思うんですけど。その方々が、フランチャイズ店のプランを言ってくれて。多分、来年の2月に10店舗できるんです。

FR　いきなり。

山下　全国で。今、1件1件オーナーと話をして、お店を作ってるんですよ。

山下　ライセンシーも、カバンの工場の人が紹介してくれて。カバンやってみないかということで。レザーラインと称するものを、UKラインと同じ頃に出したんですけど。革屋さんの社長が、「君の革の使い方おもしろいね。」と言ってくれて、「うちの革のデザインを考えてくれない」と言ってくれて。その社長は、夏に着れる革の服というのが永遠のテーマなんですけど。通気性がある革の糸を作



ったりとか、そういう方で。革の糸のニットとか、すごく面白いんですけど。その人とやっているなかで、ビューティ：ビーストという発想のもとで、服を作らせてもらえないだろうかという話をして。先方にデザインを提供していたのが、変貌して、ライセンシーというか、自分がデザインを提供できる服のアレンジというかたちでのおつきあいになって。

ライセンシーという言葉はあまり好きじゃないんですけど。なんでいろんな会社で服を出すかのかっていったら、それは、一つのアイデアだったんですよ。パリでコレクションをやらなくなったのも、買えない服を見せてもしょうがない思ったので。パリはやめて、その代わりにロンドンでちゃんと作れるようになったら、いつでも、パリに行って、コレクションをやって、みんなに着てもらいたい。国内だったら、例えば、革のジャケットを、僕たちが革屋さんに発注して、仕入れて、上代設定したら、15万円くらいになるんですよ。でも、その革の工場自体がお店に直接送ったら、例えば、9万円とか7万円とかになるんですよ。

15万の革ジャンを7万円で出せるんだったら、同じクオリティでもっと安く作れる方法があるのなら。同じネームタグで、同じポリシーを工場が持ってて、同じ型紙をパタンナーがやれば、お店の中では買いやすいほうが良いという結論で。それが、レザーラインの展開で。カバン屋さんも同じ発想だったんですよ。僕たちがカバンを作るより、餅は餅屋の人間が作ったほうが。オリゾンティさんと今回契約して新ブランド・カジュアルブランドをスタートしたんです。オルソ・ビューティ：ビースト(also beauty：beast）といって、「2」と書いてますけど、「me too , you too」の「ツー」から来てるんですよ。「TOO」じゃディフュージョンのニュアンスがあるから、オルソ(ALSO)いう名前で呼んでいるんですど。これも、また、ビューティ：ビーストです。

前回のコレクションの時、カジュアルとフォーマルが入り乱れたコレクションという総評が多く出たんですよ。プレーン・スカートとスタジアム・ジャンパーみたいな対比や、角の頭にニット・キャップみたいな。自分は自然に作ったんですけど。若い人たちが作る東京のファッションカルチャー、これが日本のオリジナルのカルチャーだと思ったんですよ。ヨーロッパで若い子が、あんなにヴィヴィアンとか着れないじゃないですか。東京には、そういうファッションカルチャーがあるんだなというのを感じて。それが、キュートとか可愛いのファッションカルチャーになっちゃってますけど。でも、着てる彼らはそうは思ってないと思うんですよ。もっと新しく、自己PRもあるだろうし、どうやって生きていくとか。自分が変貌していく形が服に現れていると思うし。日本の若い人のカルチャーは、そういう部分ですごくストレートだと思うんですよ。それをコレクションの中に入れたときに、革のスニーカーや、ニット・キャップ、プレーン・スカート、ビスチエが入り乱れてて。これがありのままの東京というか、日本だと思ってやったつもりのショーだったんですけど。



beauty:beast '98 SPRING SUMMER COLLECTION 速報



ビューティ：ビーストのコンセプトって、結局、ファッションはより自由な言葉のツールというか、洋服を記号化するというか。単語のように、自由なツール。洋服は情報だと思うんです。ファッションショーというのは、一つの文章で、本なんです。僕たちは、本の状態で思う存分提案するんですけど、その中から、バイヤーさんが展示会で、８ページ目とか２４ページ目とか、共感する部分をチョイスする。で、お店に持ち帰ったときには、もうバイヤーさんの言葉に変わっていて。例えネームタグが付いていても。共感した時点でバイヤーさんの言葉になっている。そしてその言葉は、お店に来る若い子たちに通じる言葉になっていると思うんです。

例えば、すごく激しく怒っているというテーマのファッションショーやるとすると、その本には、激しく怒るまでのプロセスが書かれている。そこからバイヤーさんが、愛しているとか泣いているという表現を抜き出していく。その時点でバイヤーさんのテイストに変わっていて。

次にその中から、一着のジャケットを拾う子にとっては、必要なものとして、その子の形成をサポートする役をする。お店に並べて、若い子がこれを買ってくれたんだよとか、これを喜んでたよとかっていうの情報が、僕たちにキックバックしてくるんです。要するに、情報のキャッチボールとしてのツールが洋服で。僕たちにとってのコミュニケーション・ツールが洋服だって考えるようになって、すごくやりやすくなったのかな。

ビューティ：ビーストのコンセプトは、「存在」なんですけど、自分が、一番最初におやじに言われたところに戻っちゃうんですけど、悪しき心というか、有名になりたいとか、かっこ良くなりたいとか、女にもてたいとか、金持ちになりたいとか、欲があるじゃないですか。でも欲が無いと、向上心も無いと思うんです。それは一見、ビースト、獣のような自分。自分の中で格好悪いと思うような、あるいは嫌いな部分。でもそれは自分を守ろうともしてる。一方では、人に優しくしてあげたいとか、もっと人を愛したいとか、ビューティな部分があって。自分の中に両方存在している。それが常に自分の中で格闘している。そういう自分の悪い部分に自分が気付いたら、より良い人間になりたいという向上心に変わっていくみたいな。要するに、ビューティ・アンド・ビーストの「アンド」を取ってしまって、美女と野獣の「と」を取ってしまって、「コロン」だけでつながっていて。最後には一つの言葉になってしまう。結局、自分が存在しているということなんですけど、「存在」という言葉より、抽象的で、かつ単刀直入なので。

ＦＲ　さっきのお話しの新しい「オルソ」は、いつ立ち上がるんですか。

山下　１０月３０日に、ビューティ：ビーストとオルソー・ビューティ：ビーストのミックスのコレクションをして。服の感じは、あれですね、ニューサベージファッション。なんか、その辺が気になってて。　ＥＮＤ．



コート：サディスティック
ジャケット：20471120
パンツ：20471120
シューズ：20471120
帽子：J.P.ゴルチエ
アクセサリー：サディスティック、髭
ファッションのポイント：闇の帝王
美容室：自分で
今ハマッている事：メイク
好きな音楽：テクノ
タカピー、美容専門学校生





シューズ：ヒューティ
スカーフ：ハイトの田中
ステッキ：出雲大社で
好きな音楽
赤川 司





[illegible]
スカート：[illegible]
シューズ：[illegible]
ファッションのポイント：[illegible]姿
美容室：サイドバーン
今ハマッている事：あみもの
好きな音楽：色々ききます
リエコ（19才）、販売員



[illegible]
美容室：てきとう
[illegible]
好きな音楽：パンク
マミ（17才）、高校生

ブラウス：学校のヤツ
パンツ：スーパーラヴァーズ
バッグ：文化屋雑貨店
ファッションのポイント：ヴィヴィアン[illegible]
美容室：自分で
今ハマッている事：ヴィヴィアン
好きな音楽：パンク
[illegible]、高校生

浩　二　久　我

ラフォーレハラジュク 2F 03-3479-6015　フジイダイマル 2F 075-211-9099



ジャケット：古着（変なスポーツ店）
ブラウス：ケイタ マルヤマ
スカート：2枚重ね（アズ ノウ アズと古着）
シューズ：コンバース
バッグ：古着（おじいちゃんの）
ファッションのポイント：時期はやいモコモコマフラー
美容室：SHIMA原宿店
今ハマっている事：変なうたをかえうたする
好きな音楽：スカコア、スカ
[illegible]才、専門学校生

スカート：ツモリ チサト
シューズ：ビュルデ サボン
バッグ：[illegible]のアンティークショップで
美容室：どこでもない
好きな音楽：山崎まさよし
1[illegible]才、専門学校生



ニットジャンパー：クラッチ
スカート：クラッチ
ファッションのポイント：うけ毛
美容室：コアフェール田上
木附沢 奈美（23才）、美容師



ファッションのポイント：動きやすいかっこう
好きな音楽：テクノ、ゴア
アル（20才）、美容師



ジャケット：古着
セーター：ヴィヴィアン ウェストウッド
スカート：ヴィヴィアン ウェストウッド
シューズ：ヴィヴィアン ウェストウッド
ファッションのポイント：おばあちゃん
美容室：うじたさん
好きな音楽：オペラ
MINX（22才）、美容師



ワンピース：W&LT
ネックレス：ジョン ガリアーノ
ファッションのポイント：きのう切った前髪
美容室：自分
今ハマッている事：松田優作
好きな音楽：ソウル
マイココリコ（16才）、高校生



セーター：[illegible]
スカート：布をまいた
シューズ：ジュンヤ ワタナベ
ファッションのポイント：たまねぎ頭
美容室：VOLUME
今ハマッている事：もようがえ
好きな音楽：ハウス、テクノ
あみ（17才）、高校生

ブラウス：中3のとき買ったやつ
パンツ：古着
シューズ：コージ クガ
ネクタイ：600円で友達に作ってもらった
ファッションのポイント：これしかないから着てきた
美容室：地元
今ハマッている事：GLAY
好きな音楽：GLAY
マキコ（18才）、高校生


シャケット：ミル
ーター：昔


古着
バッグ：自作
帽子：ミルクボーイ
美容室：彼に切ってもらってる
好きな音楽：パンク、ハードコア
CHIZU（18才）、専門学校生
GIRL LOVES BOY
自転車
19才、専門学校生





セーター：もらいもの
パンツ：オゾン コミュニティ
シューズ：もらいもの
バッグ：オゾン コミュニティ
ファッションのポイント：くつ
美容室：知りあいの人に
好きな音楽：なんでも
ゆりお（18才）、フリーター

ジャケット：古着
セーター：古着
シャツ：ヴィヴィアン ウェストウッド
スカート：ヒステリックグラマー
ファッションのポイント：赤いところ
美容室：MINX
好きな音楽：テクノ
マユミ（19才）、大学生



[illegible]



[illegible]
[illegible]：コーシクカ
ファッションのポイント：インチキ高校生
美容室：VOLUME
今ハマっている事：エヴァ[illegible]
好きな音楽：いろいろと
[illegible]ン（21才）、美容師



at TOKYO COLLECTION（MILK）



シャツ：ミルク
パンツ：ミルクボーイ
シューズ：ロボット（ラバーソール）
バッグ：20471120
帽子：アンダーカバー
ファッションのポイント：パンク
美容室：自分
今ハマッている事：パンク
好きな音楽：ハードコア、メロコア、黒夢
ひろし（17才）、高校生

シャツ：ミルク
シューズ：コンバース オールスター
バッグ：自作
ファッションのポイント：はりがね
美容室：友達（かなえ）
今ハマッている事：おね
好きな音楽：スカパン
17才、高校生

at TOKYO COLLECTION (MILK)

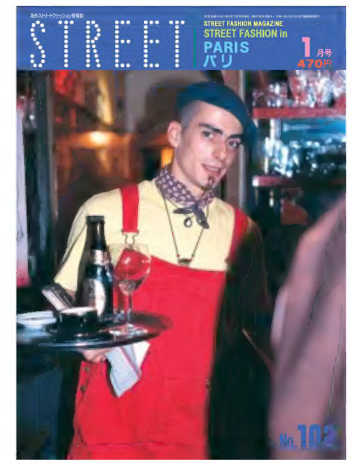


at TOKYO COLLECTION (MILK)



at TOKYO COLLECTION (beauty:beast)















バックナンバーの問い合わせが
殺到してますが、
No.1〜4のすべてが、
売り切れとなりました。

FRUiTS

全国ローカル情報
募集
（ここに来て、とか
おしゃれスポットはここ、とか
オモシロイお店がある、とか
取材のとき食べるおいしいお店はここ、
みたいな）

次号予告
12月19日
発売予定
内容未定

Fruitsは月刊です。
毎月23日前後に
発売です。

載っている服は、今販売して
いないことの方が多いと思います
ので、メーカーに問い合わせると
きは、ご注意ください。

編集部へのお便り、プレゼントの
お申し込みのとき住所を
まちがえないよう気をつけてね。
（恵比寿西です。）

こんなページを作ってほしい
こんな企画をしてほしい
募集

EDIT: Noriko KOJIMA
編集発行人・青木正一
発行所・ストリート編集室
東京都渋谷区恵比寿西1-16-8-5F 〒150
Tel.(03)3463-2190 Fax.(03)3463-2191
THE STREET EDITORIAL OFFICE
1-16-8-5F, EBISU-NISHI, SHIBUYA-KU, TOKYO, JAPAN
 1997.12.1

こんなものが流行ってるとか、
こんなことに凝ってるとか、
これが面白いよとか、
今これに注目とか、
ニュース募集
（会社の方、デザイナー等の方々へ：
プレスリリース等いただいておりますが、
編集企画が合った場合に
ご連絡させていただきます。
ご了承ください。）

アンケートは、自己申告を
そのまま掲載しています
ので、まちがっていること
もあります。